

A Study on the Establishment of Middle Level Education on Architecture in Japan : Through the Activities by the Ministry of Education and Architectural Institute of Japan, the Later Taisho-era and the Early Showa-era

松永, 文雄
西部ガス株式会社

<https://doi.org/10.15017/14007>

出版情報：九州大学, 2008, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



KYUSHU UNIVERSITY

謝 辞

なぜ今から約 100 年前のことを探求しなければならないか。それは現在建築士の質が問われていることと、大学を始めとする建築教育の内容と社会的評価にも関係している。当時、建築学会が提案した標準教科書は、実業学校を前提としながらも、この時期に建築学教育の確立、少なくともその基盤が確立されたとの見解がある。現在、建築士の受験要件で教育の見直しが迫っており、資格付与を教育課程の条件とするのでなく、我が国の建築教育は如何にあるべきかという高所からの視点が求められると考える。

本論文作成にあたり、九州大学大学院芸術工学院教授片野博博士のご指導がなければとうてい完成には至らないものでした。先生のご専門の技術論から始まり、研究に取り組む姿勢、論文の書き方、時には学問の奥深さなど、全て根気強く懇切に多くのことをご教授いただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。また本論文の審査にあたり、九州大学大学院人間環境学研究院教授竹下輝和博士、芸術工学院教授土居義岳博士には研究者の立場から貴重なご意見とご助言をいただきました。心から感謝申し上げます。

芸術工学院助教井上朝雄博士には有益なご助言、資料作成など助けていただき感謝の意を表したいと思います。人間環境学研究院教授渡邊俊行博士からは研究者としての心構えをご教授いただき、また九州大学を始め他大学の多くの先生方がくださった励ましのお言葉でたどり着くことができました。改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、大学院博士課程へ入学し研究しようと思ったのは、以前から建築教育について研究を続けていた矢先、九州芸術工科大学（現九州大学）での恩師、建築家香山壽夫博士（現東京大学名誉教授）から学位をめざさないかとの助言があり、そこで 37 年間師と仰ぐ片野博博士のもとで指導を受けることにしました。そして、それを心から後押ししてくれた勤務先の西部ガス株式会社、及び当時の小川弘毅副社長（後に社長、現会長）の学問に対するご理解があったからこそ、また、応援してくれた多くの友人に支えられ、ここまでこれました。皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

長い間いろいろな面で支えてくれた上、わがままを許してくれた妻百合子、子供達に感謝するとともに、本論文を捧げたいと思います。